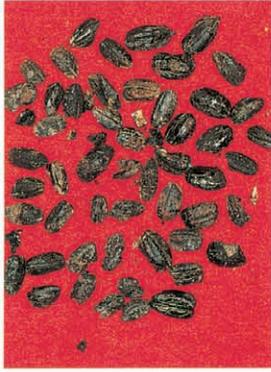


菜畑遺跡出土品



彩文土器



炭化米



末盧館と古代復元水田



クワ



石包丁



竪穴住居



竪穴住居ジオラマ

唐津市末盧館案内図



所在地 唐津市菜畑3359-2 ☎0955-73-3673

利用案内

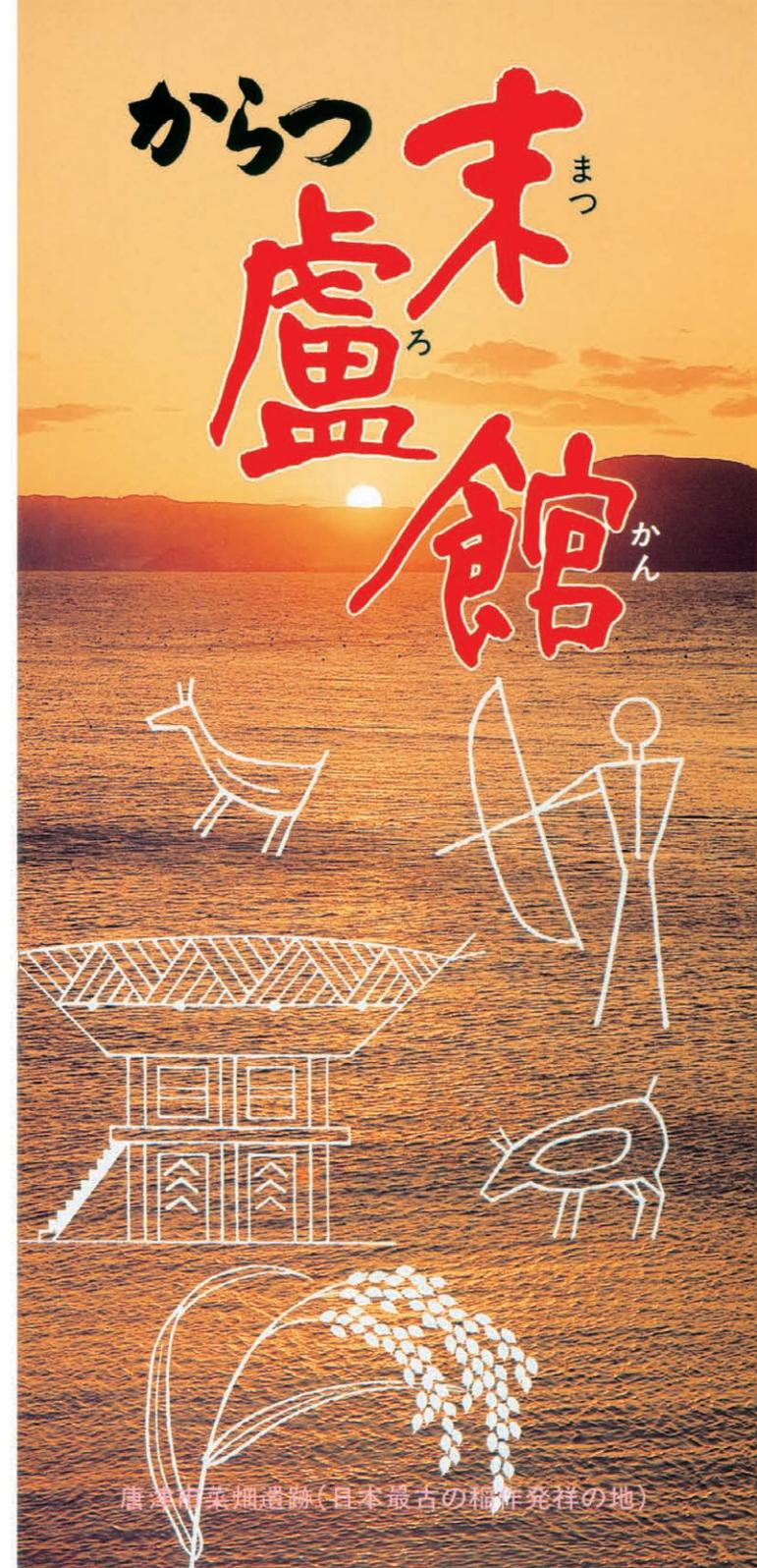
- 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 休館日 月曜日(祝日が月曜の場合は火曜日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 大人 1人 200円
小人 1人 100円(4歳～14歳)
団体 20名以上 2割引

末盧館

農林水産省 モデル木造施設建設事業

出あいふれあいの広場

国土庁 地域行動推進事業



唐津市菜畑遺跡(日本最古の稲作発祥の地)

まつるかん 末盧館の名の由来

中国の三国時代の史書、魏志倭人伝の中に有名な卑弥呼のいる邪馬台国へ至る「クニ」の一つとして、「末盧国」という記述が出てまいります。

これが、現在の唐津市周辺に古来大陸との交流をもとに栄えた「クニ」であり、それが中国の王朝にも知られていたということです。

市ではこの「末盧国」の名を広く知っていただくために「末盧館」という名称を選定いたしました。

末盧館・出あいふれあいの広場

この施設は、日本最古の稲作遺跡である菜畑遺跡を顕彰するために建設したものです。

末盧館は、古代の高床倉庫をイメージし建設したもので、日本稲作発祥の地—菜畑遺跡—の展示を行っています。特別展示室には、邪馬台国時代の「末盧国」の代表遺物を展示しています。

出あいふれあいの広場には、遺跡公園として日本最古の稲作ムラの竪穴住居、日本最古の水田、縄文の森を復元しています。この広場は市民並びに観光客の皆様がつろぎ、語りあえる場といたしております。

菜畑遺跡

菜畑では今から2500～2600年前の縄文時代晩期に、大陸から伝えられた稲作を日本で初めて行いました。

遺跡からは、これを証明する多数の炭化した米、稲穂をつみとる石包丁・木のクワ・エブリなどとともに小区画（20～30㎡）の水田跡も発見されました。

また、水稻だけではなく、アワ・ソバ・ダイズ・ムギなどの五穀をはじめ、メロン・ゴボウ・クリ・モモなどの果実・根菜も栽培していました。

家畜としてのブタ(イノシシ)も飼育していたのではないかと考えられ、菜畑は文字どおり「日本農業の原点」であることを証明しました。

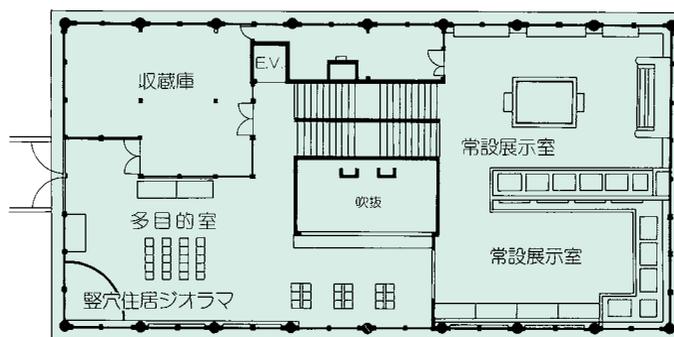
設置の趣旨

文化財は、私たちの歴史や文化を正しく理解するために欠くことのできないものであり、さらに将来にわたる文化の基礎をなす貴重な財産です。

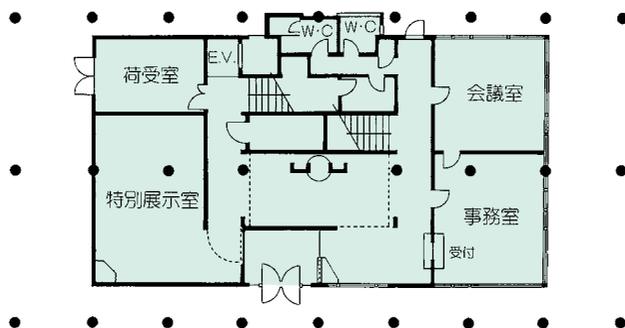
このような文化遺産は、最近の社会環境の変化に伴って破壊される現状におかれています。

当館は、これらの貴重な歴史的資料を収集・整理し、永久保存を図るとともに、調査研究の成果を一般に公開し、多くの皆さんに郷土の歴史と、先人のたゆみない労作に対する理解と認識を深めていただくための施設として設置したものです。

2階



1階



展示の内容

- 菜畑遺跡の発見
発掘調査とは、きっかけ、調査、整備
- 世界の稲作と伝播
世界の米生産、明治期の在来種、稲の原産地、古代稲の種類、農耕のタイプ、伝播経路
- 日本最古の稲作跡——菜畑遺跡
菜畑のムラ（地形模型）、炭化米と水田
農具（石包丁、クワ、エブリ、^{あごほね}鑿、カマ）
食事と食器（カメ、ツボ、高杯、スプーン、フォーク）
- 菜畑のムラの生業
畜産（ブタ、イノシシ）、畑作（アワ、オオムギ、ソバ）
狩猟（イノシシ、シカ、テン、犬）（石鏃、弓、石サジ）
採集（クルミ、シイ）（石皿、すり石）
漁撈（クジラ、サメ）（つりばり、モリ）
- まつりとすまい
まつり（彩文壺、ブタ^{あごほね}顎骨）、すまい（竪穴住居）
倉庫（高床式倉庫、貯蔵用の壺・鉢）
- 木工技術ほか
木工技術（石斧、手斧、ノミ）
その他の技術（織物、漆器、装身具）
- 末盧国の青銅器類等
宇木汲田、桜馬場遺跡出土品（銅剣、銅鏡）

施設の概要

構 造：木造及び鉄筋コンクリート併用2階建

建築面積：557.590㎡

延床面積：674.910㎡

内 訳

1階	事務室	2階	展示室
	エントランスホール		多目的室
	会議室		収蔵庫
	展示ホール		階段
	展示室		倉庫
	荷受室		